



関中央ロータリークラブ

2023-2024 WEEKLY REPORT

例会日:毎週木曜日 18時30分 例会場:関観光ホテル 住所:岐阜県関市池尻 91-2

事務局:岐阜県関市下有知 1655-1 山田ビル 1階D室 TEL(0575)24-7332 FAX(0575)23-5278

会長 森 敬 副会長 川上 勉 幹事 石原 妙生 クラブ会報委員長 後藤 政之



世界に希望を生み出そう

2023~2024 年度 関中央ロータリークラブ会長テーマ

「親睦から生まれる奉仕の心、奉仕から広がる友情の輪、
そして共に成長し合おう」

第 2138 回
2024 年 4 月 25 日

本日のプログラム 卓 話 公共イメージ委員会 委員長 近藤 浩史 様

担 当 : 会場監督

前例会の記録

第 2137 回 2024 年 4 月 18 日 (木)

C.A 地区研修・協議会報告

担 当 : 次期会長・幹事

*ロータリーソング「我等の生業」 斉唱

*会長あいさつ 森 敬 会長

こんばんは。本日のプログラムは地区研修協議会の報告です。宜しくお願い致します。先週の土曜日 4 月 13 日に早朝よりバスで 2 時間の移動、お昼から夕方まで長時間の研修で参加された方々お疲れ様でした。開会セッション、第 1 セッションの後に、各分科会に分かれて研修を受講しました。私は会員増強と公共イメージの合同分科会に参加をしました。公共イメージは、当クラブで雑誌・広報委員会に当たります。ロータリーの活動を広く世間の皆様に知って頂くことを目的としています。当クラブではロータリーの活動の際には各新聞社様に取材をお願いして新聞掲載をして頂いております。



国際ロータリー 2630 地区公共イメージ委員会では、それ以外にインターネットなど SNS などを利用して、もっと多くの方々にロータリーの活動を知って頂く様に言われております。しかし、現状の当クラブで SNS など使用している方がおられるでしょうか？私は SNS を使用しています。フェイスブックでは 2630 地区もフォローしていますが、なかなか見ることも投稿することも出来ていません。出来る方は是非、投稿して拡散して頂きたいです。宜しくお願い致します。会員増強では、DEI 推進委員会や新クラブ推進小委員会の発表がありました。DEI は多様性のある会員を増やそうとの事ですが、当クラブでは女性会員ですらない状況です。新クラブでは新しい形のクラブが発足するそうで、インターネットを使ったオンライン例会を行うそうです。当クラブの状況では、どれも難しく思います。しかし会員減少が続く今日、形は色々ありますが新しく入会して頂けるように皆で協力しあい知恵を出し合い会員増強していければと思います。宜しくお願い致します。

*C.A 地区研修・協議会報告

伊佐地 司 会員

4月13日(土)に開催された2024年国際ロータリー第2630地区研修・協議会について報告します。開会セッションとして、ホストクラブ会長の川口様の歓迎の言葉から始まり、亀井ガバナーエレクトの特別出席者紹介、篠原ガバナーからRI地区現況報告などがありました。篠原ガバナーからは、この研修を受けて次期会長や次期委員長の方々は自分のカラーを出して欲しいと言われました。昨年度の地区大会での2大会決議の再確認があり、一つ目は「日本の伝統を重んじる」例会と職業奉仕の重要性を訴えられました。二つ目に「世界社会保障補助金、WCS補助金を奉仕プロジェクト補助金、DCS補助金とする」特に国内の青少年関係に利用していただきたいとのことでした。また当地区3月末現在の会員数3,119名、うち女性209名であることを報告をされました。続いて第一セッションでは亀井ガバナーエレクトが「次期RIテーマと地区活動方針」について発表され、RI会長エレクト ステファニーA.アーチックさんのテーマ講演の内容をピックアップして説明されました。例えば、「地区が過去50年間に同じ方法で物事を行ってきたのであれば、おそらくそれを見直す時が来ているでしょう。行動計画は、クラブの強みと弱み、改善点を特定する上で役立つものです。地区内のクラブが活発に活動していない場合、または会員が減っている場合、地域社会にもっと合った新クラブを結成する時が来ているのかもしれませんが」そして「数年前、ドミニカ共和国で浄水器の設置を手伝った時、汚い水が透明な水になるのを見た少年がもっと魔法を見せてと言ったことから、年度テーマが「ロータリーのマジック」になった経緯などを説明されました。その後、ジョン・ヒューゴ国際ロータリー事務総長兼CEOについて話をされ、その中で「退会した会員は、ロータリーに対する否定的な見方を他の人と共有するためロータリーブランドにも害が及ぶ」ということや10%以上が1年以内に退会、退会者の約半数は所属年数3年未満という事実、または「私たちの中核的価値、すなわち四つのテスト、奉仕と親睦、倫理と高潔さは決して変わることはできません。でも、それ以

外は何事も可能です。頻繁に例会を開こうと、点鐘しようと歌を歌おうと、それがクラブを支え、クラブの存続と成長につながるなら、それで良いでしょう。しかし、そうでない場合は、そうした慣習をやめ、もっとよいものに置き換えてみてください」というように、四つのテストなどは変えることはできないが、それ以外は変更可能であることを説明され、印象的でした。その後決議23-34 社会奉仕活動に対する方針に触れられ、「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕―「超我の奉仕」の哲学であり、これは「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものであるといった、ロータリーの真髄であり日本のロータリアンが大切にしている根拠を説明し、次に「RIは、一般的な奉仕活動を研究し、標準化し、推進し、これに関する有益な示唆を与えることはあっても、どんなクラブのどんな社会奉仕活動にせよ、それを絶対に禁じるべきではない」といった自治権に関する内容を説明され、伝統は改革によって守られると言われました。その後、地区方針について説明され その中で、一番重要視しているのは会員増強であり、これはRI会長エレクトと一緒にすること、方針は「地域にインパクトを」であることを発表されました。インパクトの意味とはジョン・ヒューゴCEOの説明として、1・解決することは何か、2・仮説を立てて試すこと、3・未来の状況を思い描いて考えることと説明されましたが、それぞれ皆さんで地域にあった意味を考えてほしいとお願いされ、またロータリーの公共イメージも向上させ、会員増強に繋がりたいと説明されました。次の第二セッションでは、戦略計画、研修情報・職業奉仕の分科会に参加し、3名の講師から話を伺いました。最初に高橋直前ガバナーより「戦略計画と必要性」というテーマで、国際ロータリーの誕生の歴史、国際ロータリーの概要、近年のRIの現状などについて拝聴しました。ガバナーとしてRIと接して感じたことは、現在のRIの組織は発足時のRIの目的、やり方などが、かなり違ってきており、現在のRIは

1年任期のRI会長より15年のキャリアも持つ事務総長の権限が強く、理事会、事務局が中心となり運営していることを懸念されていました。近年のRIの現状は中央集権的団体として理事会・RI事務局権限の強化により、人道的奉仕活動を組織的に効率よく運営することを目的として、上意下達の指導体制であり、任意ではあるが半強制的であることなどです。しかし、あくまでロータリーの主役は各ロータリークラブであり、ロータリーの心と原点を大切に、日本のロータリーの成長を目指すことを強調されました。そしてロータリーの戦略計画の重要な要素として、1・ロータリーの成長、2・RIの最優先事項「ポリオ撲滅」3・RIの最重要事項「会員増強」を説明され、RIは基本的な本質は変えないで、時代の変化に適応した新しいロータリーを模索しているため、日本のロータリーも文化を大切に新しい日本のロータリーの姿を模索する必要があること、またRIはガバナー制度を廃止し、2030年には違う組織を作ろうとしているため、日本もそれに合わせた対応が必要であることなどの説明がありました。クラブにおける戦略計画の必要性としては、新たなリーダーが就任するごとに方向性が変わることを防ぎ、重要目標の達成に向け、確固たる方向性をもって進むためであること、また、クラブの活性化については、ロータリーの本当の危機をあげ、1・ロータリーの魅力が失われている。2・ロータリアンとしての誇りが失われている。3・ロータリーの社会的存在価値が今問われている。4・ロータリーが会員の期待する価値を提供できていない。とし、これに対し、クラブと会員の「質」と「量」の向上としてのクラブ戦略計画が重要でありクラブの活性化、成長には「戦略計画の立案」と「会員に対するクラブ研修」の必要性を説明されました。次に岩田研修・学習委員会委員長の話があり、折角入会した会員に対し何も教育せず、唯々例会出席や行事参加だけを促しても、ロータリーの本質・目的・楽しさ・深さ等々を知らずに早期退会してしまう会員は、云わば「アンチロータリー」として、これからの会員増強の障害になる可能性もあるため、クラブ研修リーダーは、ロータリアンとロータリークラブの将来を担う大きな役割を持っているということと、会長は

例会などで折に触れて、少しずつロータリーの話を入れてもらうことが研修になり、重要なことと説明されました。最後に菅内職業奉仕委員会委員長より、ロータリーの理念と職業奉仕というテーマで職業奉仕と例会について説明され、1・例会は重要な場と捉え、有意義な開催を行う。2・例会で会員卓話（職業奉仕）をたくさんして親睦を深める。3・1月の職業奉仕月間に合わせて、クラブの職業奉仕委員長が関連卓話をするということが話されました。マイロータリーの記事や職業奉仕月間のリソースを活用することを推奨され、内容を参考に職業奉仕に関する卓話などをしてほしい旨、話をされましたが、関連卓話については、正直困ったなというのが今の感想で、どうしたもんかと悩んでいます。最後に閉会セッションとして次期開催地ホストクラブ発表などがあり、桑名北RCによって、次回は2025年4月12日（土）に予定され、次期地区大会は名張RCがホストのもと、2024年10月5日（土）～6日（日）に開催される予定などの発表がありました。その後、高橋直前ガバナーの長い総評があり、予定通りの時刻に閉会となりました。昼食後の研修会なので、眠たくなるかと思いましたが、会場の冷房が効きすぎて、寒くて睡魔には襲われずに済み、最初から最後まで拝聴することが出来ました。

吉田 和也 会員

会場に到着後、受付を済ましてから弁当を頂きました。とても広いとは言えない席で、ちょうど良い量とは言えない食事を頂き、腹八分目より少し少なめで中ホールへと移動しました。開会セッションで印象に残ったのは、篠原ガバナーの挨拶・RI地区現状報告の中で「自分のカラーを出して1年間頑張ってください」又、昨年の地区大会で発表された大会決議の中で「日本の伝統を重んじる決議、日本のロータリーは例会を職業奉仕を学ぶ道場と位置づけ、己を磨くために例会に出席する」と言われました。私も不易流行の如く、変えてはいけないロータリーの精神は大事にしながら変わってゆく時代や環境に対して柔軟に対応してクラブ運営や会員増強をしていかなければならないと感じました。そして開会セッションの最後にガバナーノミニの挨拶がありました。そこで

とてもすごいなと思ったのですが、ガバナーノミニーは桑名北 RC の玉野英美さんという女性の方で、女性の歳の事を言うのは気が引けますが、私より 2 歳年上の方で若いと感じるかどうかは個人の意見がございしますが、私はとても若いガバナーノミニーだと思ひ素晴らしいと思ひました。その後、第一セッションの会場に移動しました。私は会長エレクト・AG・CC 会議に大藪会長エレクトと一緒に出席致しました。只私は次年度の会長エレクトですので少し場違いな空気を感じましたがいずれにしても勉強になると思ひましたので参加させて頂きました。会議ではバストガバナーの辻正敏ロータリーコーディネーター補佐からお話を頂きました。会議の内容には関係ないですが、ご自身がガバナーの時にコロナが始まり地区の行事や交換留学生の対応に関して何もかも初めての対応でご苦労されたお話をされました。私もその時にクラブの会長をさせて頂いておりました、コロナなどすぐに終息すると思ひて簡単に考えておりましたが、こんなにも長い間影響を受けるとは当時思ひておりました。そして話は本題に入りまして、亀井ガバナーエレクトの本年度の地区方針、重点目標の各クラブの中で地域社会調査を実施し、地域社会にとって最も有意義なプロジェクトを再度模索し実践し、地域の中で持続可能でより社会のニーズに即した大きなインパクトをもたらすアイデアをぜひ今年度から捻出、実践することを熱望しますとお話されました。我がクラブにおいては、非常に有意義な事業を行っておりますので今の事業を継続していけばよいと思ひます。又、マイロータリーへの登録とジャパンロータリーポータルサイトの活用を勧められました。マイロータリーには様々な情報などが詰まっておりますロータリーの事を調べたりするのに大変役に立ちますし、ポータルサイトには今年度の活動計画等が事細かく載っておりますので是非活用してほしいとのことでした。私は会長に就任した時のペッツでも同じような事を言われて登録しなければいけないと思ひつつも元来 PC 作業が余り好きではございませんので先延ばしにしまして結局登録しなかった経緯がございしますので次回は登録をするように努力したいと思ひます。その後 14 時 30 分から 16

時 10 分の 100 分の大変長時間に及ぶ第 2 セッション。私は戦略計画と研修情報・職業奉仕の合同分科会に参加しました。長い時間の研修で少し疲れてしまい、自宅でボイスレコーダーを聞きながら原稿をまとめれば良いと思ひていたのですが、なんと第 2 セッションの内容が録音されておらず、わずかばかりの記憶の中で印象に残った事をお話させて頂きます。経営戦略と必要性という事で高橋 伸治 直前ガバナーがお話されました。国際ロータリー誕生の歴史から現在に至るまで、現在の国際ロータリーの運営が RI 会長は 1 年で交代していく中で国際ロータリーの事務総長 ジョン・ヒューコ氏は 15 年も長い間事務総長を務めて見えて、もともとは各クラブが任意で各々の事業を行う運営が半強制的な RI 事務局による運営体制に現在はなっていると話されました。クラブの活性化、成長には戦略計画が必要で、しっかりとクラブの将来の姿を思ひ描き、実効性のある戦略計画を立て、クラブの活性化を図り、クラブの持続的な成長を目指してくださいとまとめられました。我がクラブにおいても、行っている事業を継続するためにはやはり会員増強が急務で会員を増やして今行っている事業が継続できるようにするための計画を皆で話し合い立てなければいけないと思ひました。その次に研修・学習委員会という事で研修委員会の岩田 勝美 委員長が、やはりここでも会員増強の事をユーモラスに冗談を交えてことごとくスベリながらお話になりました。その中でせっかく入会した会員を退会させないために IGM 等を活用してぎくばらんにロータリーの事を話し合い、親睦を深めながら会員のレベルを引き上げることが大切だとお話になられ、私も只毎回の例会で卓話を聞いて解散するだけでは楽しみもございませんので例会の後の親睦も必要だと思ひました。最後に職業奉仕委員会の菅内 章夫 委員長が岩田 勝美 委員長のユーモラスな話の後で非常にやりにくそうにロータリーの理念と職業奉仕のテーマでお話になりました。親睦を図るための会員卓話の実施やここでもマイロータリーを活用した例会や研修を勧められました。そして閉会式の運びとなりました。次期開催地ホストクラブ会長挨拶で桑名北 RC の御年 80 歳の山下 三男 会長

エレクトが挨拶をチャット GPT が編集した挨拶文として、東海地方では 3 本の指が入る芸者のいる町などととてもユーモラスに次回の 4 月 12 日土曜日桑名市の柿安ホールにて行われる地区研修協議会の案内をされ会場が笑いに包まれて心が和みました。そして無事に閉会して帰路につき神楽にて懇親会を行い本日の日程を終了いたしました。

後藤 政之 会員

当クラブからは 9 名が出席しました。はじめに開会セッションが行われました。その中で一番印象に残ったのは、最後に挨拶された玉野英美ガバナーノミニーです。桑名北 RC の所属で。年齢は私の一つ上の女性の方です。「多様性」と言われるこのご時世に、「男性、女性」と言っていることが、既にいけないのかもしれませんが、こういう方が後にガバナーになられると思うと、ロータリークラブに何かしらの「変化」があるのではないかと思いました。続いて第一セッションでは、「次期 RI テーマと地区活動方針」というテーマで、亀井ガバナーエレクトのお話を聞きました。ステファニー A. アーチック RI 会長エレクトやジョン・ヒューコ RI 事務総長兼最高経営責任者の講演での言葉を引用して話されました。ステファニー A. アーチック RI 会長は、『地区が過去 50 年間に同じ方法で物事を行ってきたのであれば、おそらくそれを見直す時が来ているでしょう。行動計画は。クラブの強みと弱み、改善点を特定する上で役立つものです。』や『地区内のクラブが活発に活動していない場合、または会員が減っている場合、地域社会にもっと合った新クラブを結成する時が来ているのかもしれませんが。クラブ会員が何を望んでいるのか尋ね、地域社会のニーズとの橋渡しをしましょう。クラブや地区が長年変わっていないからといって、誰も変化を望んでいないわけではありません。地区ガバナーであるみなさまには、向上する力をクラブ会員に与える素晴らしい機会があります。』また『地元クラブの典型的な会員とは異なるタイプの人であっても、DEI をうけいれれば、共通の目的のために結束しやすくなります。ともに献身し、力を注ぐことで、ロータリーは最も効果的で時代に即した



存在になることができます。しかし、活動はそこで終わるわけではありません。私たちがクラブについて人々に伝えなければ、クラブが魅力的であると誰も知ることはありません。事実、この困難の時代に前向きなイメージを広げ、積極的平和を広げるには、ストリーテラー（語り部）が必要とされます。』と述べ、またジョン・ヒューコ CEO は『たとえクラブがうまく行っても、改善の余地は常にあります。フィリピンのナガ・RC がそのいい例です。このクラブは 69 年の歴史があり、地区で模範的なクラブと見なされています。地域社会で活発に活動し、その活動は一貫して高く評価されています。その主な理由は、クラブの体験をよりよくする方法について新会員から提案を募っていることです。』また『もちろん、私たちの中核的価値、すなわち四つのテスト、奉仕と親睦、倫理と高潔さは決して変わることはできません。でも、それ以外はどうでしょう？何事も可能です。どんなに頻繁に例会を開こうと、点鐘しようとして歌を歌おうと、それがクラブを支え、クラブの存続と成長につながるなら、それで良いでしょう。しかし、そうでない場合は、そうした習慣をやめ、もっとよいものに置き換えてみてください。』と述べています。これらは講演の話の中の一部を切り取ったものではありませんが、両者とも変えられないものがある一方で、それ以外のものは、その時代や地域社会のニーズ、クラブ会員の思いを考慮して、変化していかななくてはならないとっており、どちらかというとな保守的なイメージがロータリーにはあったので、ちょっと衝撃的なでした。亀井ガバナーエレクトの地区方針は『地域にインパクトを』で、会員増強を 1 丁目 1 番地でやっていくのと同時に公共イメージアップ、ロータリーの知名度アップをやっていくと仰っていました。会員増強は、会員が増えればクラブの財政も潤うので、事業がやりやすくなるのと同時に、人が増えた分、色々な意見やアイデアも増え、クラブの変化にも繋がっていくので、改めて大事な事であると思いました。第 2 セッションでは、『戦力計画と必要性』というテーマで、高橋直前ガバナーが RI の歴史や近年の RI の現状の話があり、次に次期研修委員会岩田委員長の話、最後に次期職業奉仕委員会菅内委員長の口

ロータリーの理念と職業奉仕について話がありました。一番印象に残ったのが、岩田委員長の話で、『折角入会した会員に対し何もせず、ただ例会出席や行事参加だけを促しても、ロータリーの本質・目的・楽しさ・深さ等々を知らずに早期退会してしまう会員は、「アンチロータリー」として、これからの会員増強の障害になる可能性があります。』とのことでした。正直自分もロータリーとは？と聞かれたら、明確に言葉にして説明できるかといったら、全く自信がありません。先輩会員の皆さんには、今更かと思われるかもしれませんが、普段の例会で、改めて勉強できる機会があってもいいのではと思いました。閉会セッションでは、次期開催地ホストクラブ、桑名北 RC 山下会長エレクトの挨拶、80歳とは思えない芸人のような話し方にこの日一番の笑いかおきましたが、その後の高橋直前ガバナーの長々とした総評にげんなりして、ほぼ時間どおりに終了しました。関に戻って懇親会を行いました。皆さんお疲れ気味でしたが、お酒が入り元気になったように、しらふの私には見えませんでした。午前9時に出発して、懇親会は午後9時15分に中締め、12時間ちょっとの長い1日でしたが、事故やトラブル無く無事帰ってこられて良かったと思います。

***出席委員会**

会員数28名、本日の出席13名です。

***ニコボックス委員会**

・会長、副会長、幹事

本日のプログラムは、C・A地区研修・協議会報告です。報告の会員の皆さん御苦勞様です。報告の内容楽しみです。

13名のご投函ありがとうございました。

***幹事報告**

・4月のロータリーレートは1ドル151円です。

・例会プログラム変更について

5月14日(火)

東海北陸道グループ親睦ゴルフ会

シーダーヒルズカントリークラブ

ホスト：関中央RC

※ 5/9(木)例会の変更となります

5月19日(日)

親睦家族例会 18:30~

場所：フランス料理 ラパンアジル

※ 5/16(木)例会の変更となります

5月23日(木)

卓話 曹洞宗 圓通寺 住職 岡田 英賢 様

場所：例会場

<次例会の案内>

第2139回 2024年5月14日(火)

東海北陸道グループ親睦ゴルフ会

担当：会長・幹事

ホスト：関中央RC